研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		21-331	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Effect of long-term aggressive nutrition therapy on survival in patients with alcohol-related cirrhosis: A randomized controlled trial

アルコール関連肝硬変患者における長期積極的栄養療法の生存率への影響。無作為化比較試験

執筆者

Chetan Kalal[1,2], Jaya Benjamin[3], Varsha Shasthry[3], Guresh Kumar[4], Manoj Kumar Sharma[1], Yogendra Kumar Joshi[3], Shiv Kumar Sarin[5]

掲載誌

Indian J Gastroenterol. 2022 Feb;41(1):52-62. doi: 10.1007

キーワード	PMID
身体測定、生体インピーダンス分析、身体組成、食事カウンセリング、肝硬変栄養不良、栄養状態、高分子栄養剤、ロイヤルフリー病院-主観的グローバル評価、生存利益	35235198

要　旨

背景　本研究の目的は、アルコール性肝硬変（ALC）患者における長期積極的な栄養療法が臨床転帰および生存率に及ぼす影響を評価することであった。

方法　Royal Free Hospital-Subjective Global Assessment（RFH-SGA）で評価した栄養不良患者を，対照群（CG）（35～40 kcal，タンパク質 1.2 g/kg/日；食事のみ）と介入群（IG）（40～45 kcal，タンパク質 1.5 g/kg/日；食事＋高分子ミルク）に無作為に分け，3 ヵ月間追跡調査を行った．患者は 3 ヵ月と 12 ヵ月でフォローアップされた。

結果　栄養失調患者（年齢 44.0±9 歳，M［100%］，Child A：B：C［%］＝11：39：50）を CG（n＝50）または IG（n＝54）に無作為化し，CG では 21 例，IG では 27 例が 3 か月の追跡を完了した。RFH-SGA は、IG では 7 人（33.3%、p=0.016）、CG では 3 人（14.2%、p=0.625）で改善された。3 ヶ月間で、カロリーの増加（CG 対 IG）が見られた（1554±972→1823±398；p＝0.001 vs. 1542± 603 から 2254 ± 372；p=0.001），タンパク質（53.1 ± 18.4 から 72.5 ± 19.6；p=0.001 から 53 ± 21 から 86.9 ± 18.8；p=0.00），乾燥体重（64 ± 10 から 66 ± 11；p=0.04 から 60.8 ± 9.2 から 63.2 ± 10.7；p= 0.009），中上腕周径（MUAC）（24.7 ± 3.3 から 25.5 ± 3.3; p = 0.116 対 23.5 ± 2.7 から 24.1 ± 2.9; p = 0.015）、腹水の消失は IG（53.3%; p = 0.008） 対 CG（44.4%; p = 0.227）が良好であった。12 ヵ月生存期間中央値は両群で同等であった（p = 0.864）。介入群に関係なく、エネルギー摂取量＞25kcal、タンパク質量＞0.8g/kg/day では 12 ヵ月生存率を有意に改善した。

結論　積極的な栄養療法は栄養状態を改善し、腹水を解消するが、長期生存の利益は得られない。しかし、カロリーおよびタンパク質の摂取量を増やすことは生存に影響を与える可能性がある。　**臨床試験登録。**NCT02140294